

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界		担当者	木戸裕子・轟義昭・土肥克己				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」というとなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では、3人の教員がイギリス、日本、中国の3カ国を中心に、時間を越え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらおう。各国の文学作品について考える。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（プリント資料配付）</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』</p> <p>第2回 イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』</p> <p>第3回 イギリス文学：J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第4回 イギリス文学：E.ブロンテ『嵐が丘』（1）</p> <p>第5回 イギリス文学：E.ブロンテ『嵐が丘』（2）</p> <p>第6回 日本文学：紫式部と『紫式部日記』</p> <p>第7回 日本文学：清少納言と『枕草子』</p> <p>第8回 日本文学：赤染衛門と『赤染衛門集』</p> <p>第9回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（1）</p> <p>第10回 日本文学：紫式部と『源氏物語』（2）</p> <p>第11回 中国の文学：三国志の魅力（1）</p> <p>第12回 中国の文学：三国志の魅力（2）</p> <p>第13回 中国の文学：三国志の魅力（3）</p> <p>第14回 中国の文学：三国志の魅力（4）</p> <p>第15回 中国の文学：日本での三国志</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可）							
成績評価の方法	期末レポートの提出（70点）、および講義に関する毎回の意見・感想等（30点）で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くこととなります。							
実務経験について	なし							

(注) 文学科を除く

(注) 受講者が50人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	日本の歴史		担当者	梶尾 達哉				
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。</p> <p>【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。</p> <p>【到達目標】日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 騎馬民族征服説（1） 日本史を学ぶ意義何か</p> <p>第2回 騎馬民族征服説（2） 日本の国家はいつ成立したか</p> <p>第3回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（1） 銘文発見の経緯</p> <p>第4回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（2） 銘文の釈読</p> <p>第5回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（3） 銘文発見の歴史学的意義</p> <p>第6回 古代の罪と罰（1） 平城宮跡から出た墨書土器</p> <p>第7回 古代の罪と罰（2） 日本律の科刑軽減</p> <p>第8回 古代の罪と罰（3） 贈答と賄賂</p> <p>第9回 中世の悪口 罵倒のことはに見る中世社会</p> <p>第10回 絵巻を読む（1） 絵巻とは何か</p> <p>第11回 絵巻を読む（2） 描かれた中世の人びとのしぐさ</p> <p>第12回 絵巻を読む（3） 女性の一人旅</p> <p>第13回 古文書を読む（1） 正倉院文書の残された休暇願・借用書</p> <p>第14回 古文書を読む（2） 戦国時代の古文書</p> <p>第15回 古文書を読む（3） 江戸時代の離縁状</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。 復習：配布プリント・ノートを参照しながら、授業内容を見返す							
成績評価の方法	筆記試験（100%）							
実務経験について	983年より鹿児島大学法文学部において日本史担当教員として勤務。							

授業科目	こころの科学	担当者	安部 幸志
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応
		〔必修/選択〕	選択
		〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎事プリントによる資料を配布する。</p> <p>(2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会、2015年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門ー心理学はこんなに面白い』有斐閣、2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学とは：科学としての心理学</p> <p>第3回 こころの進化：動物にもこころはあるか</p> <p>第4回 こころの発達：赤ちゃんの心理</p> <p>第5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理</p> <p>第6回 こころの発達：中年期と女性の心理</p> <p>第7回 こころの発達：老年期の心理</p> <p>第8回 性格：血液型と認知バイアス</p> <p>第9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か、感覚・知覚</p> <p>第10回 感覚・知覚</p> <p>第11回 記憶の不思議</p> <p>第12回 災害と心理</p> <p>第13回 社会と心理</p> <p>第14回 心理療法</p> <p>第15回 ストレス</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)		
実務経験について			

授業科目	芸術論	担当者	北 一浩
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位	授業外対応	適宜対応(要予約)
		〔必修/選択〕	選択
		〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート(造形芸術)を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる</p> <p>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代アートとは？ 西洋美術史、現代アート、ルネサンス</p> <p>第3回 伝統と違うから興味ない？ アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、</p> <p>第4回 美しいとは思えないのだけれど？ パブロ・ピカソ、アピニヨンの娘たち</p> <p>第5回 何が描いてあるかわからない ワシリー・カンディンスキー、コンポジションIV</p> <p>第6回 上手だとは思えないのだけれど？ エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン</p> <p>第7回 これがアートといえるの？ マルセル・デュシャン、泉</p> <p>第8回 そんなに値打ちがあるものなの？ ピエト・モンドリアン、コンポジションIII</p> <p>第9回 わかったような、わからないような ルネ・マグリット、光の帝国</p> <p>第10回 何なのか、意味がわからない マーク・ロスコ、無題</p> <p>第11回 アートとアートでないものの違いって？ アンディー・ウォーホル、ブリロボックス</p> <p>第12回 許せる？許せない？ リチャード・セラ、傾いた狐</p> <p>第13回 きれいなのに汚い？ アンドレス・セラノ、ピス・クライスト</p> <p>第14回 名作はあなたが見つかるもの 菅亮平、an actor</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート (60%) 講義内で行うワーク (40%)		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。		

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																																	
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原則である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原則を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原則を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																				
(1)テキスト	(1) プリント																																																				
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法 (令和6年度版)』、有斐閣																																																				
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>憲法概論</td><td>・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>基本権総論</td><td>・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>幸福追求権</td><td>・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>精神的自由権(1)</td><td>・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>精神的自由権(2)</td><td>・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>精神的自由権(3)</td><td>・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>経済的自由権</td><td>・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>受益権</td><td>・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>社会権(1)</td><td>・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>社会権(2)</td><td>・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>国会(1)</td><td>・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>国会(2)</td><td>・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>内閣</td><td>・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>裁判所</td><td>・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>財政</td><td>・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td></tr> </table>								第 1 回	憲法概論	・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第 2 回	基本権総論	・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第 3 回	幸福追求権	・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第 4 回	精神的自由権(1)	・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第 5 回	精神的自由権(2)	・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第 6 回	精神的自由権(3)	・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第 7 回	経済的自由権	・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第 8 回	受益権	・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第 9 回	社会権(1)	・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第 10 回	社会権(2)	・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第 11 回	国会(1)	・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第 12 回	国会(2)	・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第 13 回	内閣	・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第 14 回	裁判所	・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第 15 回	財政	・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第 1 回	憲法概論	・ 国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																																			
第 2 回	基本権総論	・ 私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																																			
第 3 回	幸福追求権	・ 幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																																			
第 4 回	精神的自由権(1)	・ 思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																																			
第 5 回	精神的自由権(2)	・ 表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																																			
第 6 回	精神的自由権(3)	・ 集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																																			
第 7 回	経済的自由権	・ 職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																																			
第 8 回	受益権	・ 裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																																			
第 9 回	社会権(1)	・ 生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																																			
第 10 回	社会権(2)	・ 勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																																			
第 11 回	国会(1)	・ 国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																																			
第 12 回	国会(2)	・ 国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																																			
第 13 回	内閣	・ 内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																																			
第 14 回	裁判所	・ 最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																																			
第 15 回	財政	・ 財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																																			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																				
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準にして評価する。																																																				
実務経験について	なし																																																				

授業科目	法学		担当者	藤野 博行																																		
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	基本的にいつでも対応します。																																		
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】法の基本を学び、論理的思考力を身につけるための基礎力を涵養します。</p> <p>【概要】法学は「常識と正しいバランス感覚をふまえて、論理的に物事を考えて課題解決する力」を身につけるための学問です。そこで本科目では、身の回りで起こりうる課題について、解決に必要な法的知識を学んだのち、皆さんの「常識」と「バランス感覚」を頼りにグループで考えることにより、社会に出た時に必要な「課題解決力」の基礎を身につけます。</p> <p>【到達目標】①法学に関する基本的なキーワードや考え方について、その内容を説明できる、②課題について、グループで意見を出し合いながら論理的に考え、自分の意見を相手にわかりやすく表現することができる、③異質な他者と議論・協働することができる。</p>																																					
(1)テキスト	(1) なし (資料を配付します)																																					
(2)参考文献	(2) 伊藤真『法学入門』日本評論社 (2022年) 1760円 ISBN-13:978-4535527157																																					
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>講義を進めるにあたって</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義①～</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義②～</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>知識注入パート～法学入門講義③～</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>前半のまとめ</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>後半のまとめ・期末テストに向けて</td></tr> </table>								第 1 回	講義を進めるにあたって	第 2 回	知識注入パート～法学入門講義①～	第 3 回	知識注入パート～法学入門講義②～	第 4 回	知識注入パート～法学入門講義③～	第 5 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～	第 6 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～	第 7 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～	第 8 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～	第 9 回	前半のまとめ	第 10 回	前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。	第 11 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)	第 12 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)	第 13 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～	第 14 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～	第 15 回	後半のまとめ・期末テストに向けて
第 1 回	講義を進めるにあたって																																					
第 2 回	知識注入パート～法学入門講義①～																																					
第 3 回	知識注入パート～法学入門講義②～																																					
第 4 回	知識注入パート～法学入門講義③～																																					
第 5 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係①～																																					
第 6 回	どんなことが法で規制されるの?～法と道徳の関係②～																																					
第 7 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義①～																																					
第 8 回	論理的に相手を説得する～合意形成・多数決民主主義②～																																					
第 9 回	前半のまとめ																																					
第 10 回	前半パートのまとめテスト (前回作成したワークシートをもとに論理的文章を書きます)。																																					
第 11 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する①)																																					
第 12 回	公園のルールを作る (法を解釈し、適用する②)																																					
第 13 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る①～																																					
第 14 回	夏祭りのルールを作る～現状分析・課題発見をしたうえで、課題の解決を図る②～																																					
第 15 回	後半のまとめ・期末テストに向けて																																					
授業外学習(予習・復習)	講義時に指示します。																																					
成績評価の方法	①知識確認テスト (20点×2)、②期末レポート (50点) ③グループワーク等の際の積極性 (10点)。																																					
実務経験について	なし																																					

授業科目	社会学	担当者	元橋 利恵
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択
			〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学入門—ジェンダー、家族、労働問題から考える。</p> <p>【概要】ジェンダー、家族、労働、ケアなど様々なテーマを通して、後期近代社会を生きる私たちが直面している、構造的な諸問題について考えていく。現在「あたりまえ」とされているような社会的規範（働き方、性別分業、コミュニケーション様式など）を相対化し、誰もが生きやすい社会を構想するために社会学の基礎を学んでいく。</p> <p>【到達目標】社会学の基礎的な考え方、概念、タームを学び、自ら複雑な社会問題について自身で情報を収集し、また、データを読み解き、分析的に考える力を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業内で指示、配布する。</p> <p>(2) 永田夏来、松木洋人編著 (2017)『入門家族社会学』新泉社、笹川あゆみ編著 (2017)『ジェンダーとわたし』</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODククション ジェンダー、セクシュアリティをめぐる「ふつう」</p> <p>第 2 回 日本における近代家族の成立と発展 (1) 近代家族の登場</p> <p>第 3 回 日本における近代家族の成立と発展 (2) 大衆化</p> <p>第 4 回 雇用とジェンダー (1) 女性の雇用の変遷 雇用機会均等法</p> <p>第 5 回 雇用とジェンダー (2) 非正規化</p> <p>第 6 回 雇用とジェンダー (3) 家事労働、ケア労働</p> <p>第 7 回 性差別の歴史と抵抗運動 (1) フェミニズムとは</p> <p>第 8 回 性差別の歴史と抵抗運動 (2) 第二波フェミニズム、現代のフェミニズム</p> <p>第 9 回 同性愛差別の歴史と運動史 (1)</p> <p>第 10 回 同性愛差別の歴史と運動史 (2)</p> <p>第 11 回 政治とジェンダー</p> <p>第 12 回 身体健康、性と社会</p> <p>第 13 回 性暴力の「神話」</p> <p>第 14 回 男性学とは—マジョリティと差別問題</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業内で指定するテキストを読み、講義のあと復習すること。		
成績評価の方法	毎回のミニ課題 40%、最終レポート 60%		
実務経験について	なし		

授業科目	生活と経済	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1,2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択
			〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の見方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか (第2~3回)。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ (第4~6回)。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ (第7~10回)。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ (第11~14回)。</p> <p>【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 人間社会と経済の発展</p> <p>第 3 回 戦後日本の経済発展と現在</p> <p>第 4 回 生産と消費 (1) ものづくり</p> <p>第 5 回 生産と消費 (2) サービス</p> <p>第 6 回 生産と消費 (3) 社会的存在としての企業</p> <p>第 7 回 労働と賃金 (1) 働くということ</p> <p>第 8 回 労働と賃金 (2) 働きすぎの日本社会</p> <p>第 9 回 労働と賃金 (3) 失業、不安定就労、貧困問題</p> <p>第 10 回 労働と賃金 (4) 人間らしい労働への取り組み</p> <p>第 11 回 税と社会保障 (1) 日本における税負担の構造</p> <p>第 12 回 税と社会保障 (2) 税制度の公平性</p> <p>第 13 回 税と社会保障 (3) 社会保障制度の役割</p> <p>第 14 回 税と社会保障 (4) 日本における社会保障の貧困</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	レポート (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)		
実務経験について	なし。		

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次] 1年		授業外対応	
	[学期] 通年	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージしうるための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ◆5月15日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア, キャリアデザインとは ◆6月12日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月10日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月18日(水)3限 第4回 企業が求める人材 ◆9月18日(水)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月16日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月6日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだこと感想を提出 (100%)			
実務経験について				

授業科目	数学の世界		担当者	愛甲 正
	[履修年次] 1,2年		授業外対応	
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な数学を理解し、さらに数学を愉しむ</p> <p>【概要】中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を愉しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 講義内容をまとめたプリントを配布する。 (2) 講義中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 第 2 回 実数・有理数・無理数 第 3 回 白銀比とコピー用紙・黄金比 第 4 回 確率(くじ引きの順番) 第 5 回 指数と対数(利息計算への応用) 第 6 回 指数と対数の計算(電卓の利用) 第 7 回 データの最頻値・中央値・平均値・箱髭図 第 8 回 データの分散・標準偏差・偏差値 第 9 回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理 第 10 回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量 第 11 回 数列(等差数列・等比数列) 第 12 回 数列の和の極限(曲線の囲む図形の面積の例) 第 13 回 弧度法と円の面積 第 14 回 非ユークリッド幾何の紹介 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	基本的に復習が中心となる。講義中に課題レポートについて指示する。			
成績評価の方法	レポート(100%)による			
実務経験について	鹿児島県立高等学校にて教諭として勤務(昭和56年4月～昭和62年3月)			

授業科目	物理の世界		担当者	藤井 伸平	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 講義の概要</p> <p>第 2回 基本的な量について</p> <p>第 3回 大気圧について</p> <p>第 4回 地球の大きさ・丸さについて</p> <p>第 5回 釣り合いとてこの原理について</p> <p>第 6回 摩擦と慣性について</p> <p>第 7回 ロケットについて</p> <p>第 8回 ガリレオ温度計について</p> <p>第 9回 気化熱についてーその1</p> <p>第10回 気化熱についてーその2</p> <p>第11回 電気についてーその1</p> <p>第12回 電気についてーその2</p> <p>第13回 磁場についてーその1</p> <p>第14回 磁場についてーその2</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>(理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を収集しまとめる。				
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第1回目の講義で説明します。)				
実務経験について	なし				

(注) 受講生が70人を超えた場合は人数を制限します。

授業科目	生物の科学		担当者	塔筋 弘章	
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製(増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 生命の機能単位：細胞</p> <p>第 2回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3回 染色体、細胞周期および細胞分裂</p> <p>第 4回 遺伝の法則：メンデルの法則</p> <p>第 5回 DNA：遺伝におけるその役割</p> <p>第 6回 DNA：遺伝子型から表現型まで</p> <p>第 7回 分子生物学、ゲノムプロジェクト</p> <p>第 8回 動物の発生</p> <p>第 9回 発生における遺伝子発現</p> <p>第10回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第11回 種分化</p> <p>第12回 生物の進化(1)：生命の歴史、単細胞から多細胞へ</p> <p>第13回 生物の進化(2)：動物の進化</p> <p>第14回 生物の進化(3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第15回 生物の進化(4)：猿人からヒトへ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(100%)				
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師				

授業科目	化学の世界		担当者	古川那由太・木下朋美
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーを参照
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのように関わっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりからの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。1～6回：古川、7～15回：木下</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探索し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 気体の化学（元素と原子、大気成分、気体の密度）</p> <p>第2回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材）</p> <p>第3回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発）</p> <p>第4回 エネルギーの化学（化石燃料と火力発電、原子力発電と核融合炉、次世代エネルギー）</p> <p>第5回 生物の化学（生体物質の分類、糖質、たんぱく質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル）</p> <p>第6回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人）</p> <p>第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（1）</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法—茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（2）</p> <p>第10回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工（ブレンド・火入れ）-アミノカルボニル反応</p> <p>第11回 味を作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体</p> <p>第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とペットボトル）-茶成分の品質への影響</p> <p>第13回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習）</p> <p>第14回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質-ポリフェノール、香気成分等</p> <p>第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	古川担当分 (40%) : 授業ごとのレポート 木下担当分 (60%) : レポート			
実務経験について	なし			

授業科目	食生活と健康		担当者	中島一喜・古川那由太・中熊美和・木下朋美
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	担当ごとに適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：健康とは何か？（中熊）</p> <p>第2回 健康な食生活：食品の特性（木下）</p> <p>第3回 健康な食生活：食の安全（木下）</p> <p>第4回 口腔と健康：口内環境正常化（古川）</p> <p>第5回 口腔と健康：味覚を変える食品（古川）</p> <p>第6回 未定</p> <p>第7回 未定</p> <p>第8回 未定</p> <p>第9回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性（中熊）</p> <p>第10回 健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法（中熊）</p> <p>第11回 健康な食生活：ダイエット（中熊）</p> <p>第12回 健康な生活習慣：運動・睡眠・休養（中熊）</p> <p>第13回 健康な生活習慣：生活習慣病（中熊）</p> <p>第14回 健康な食生活：食文化・食中毒について（中熊）</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは（中熊）</p>			
授業外学習(予習・復習)	プリントや参考文献にて学習する。			
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト (70%)、授業態度 (30%)を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	現代人権論	担当者	田口康明・藤野博行・未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	鹿児島学	担当者	前田千春・島津義秀・三嶽公子
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 鹿児島の過去と現在を多角的に解析し、未来を展望する。 【概要】 歴史、文学、まちづくり、農業と食の視点から鹿児島の特性を理解し、鹿児島の未来を考える。 【到達目標】 鹿児島の理解を深め、地域の一員として鹿児島のあるべき姿を考察する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 「薩摩のキセキ」総合法令出版社、「薩摩の秘剣」新潮新書「みたけきみこと読むかごしまの文学」、「屋久島文学散歩」		
授業スケジュール	第 1 回 はじめに：鹿児島学の講義内容の説明（島津、三嶽、岡田） 第 2 回 歴史（1）：鹿児島の歴史について（島津） 第 3 回 歴史（2）：鹿児島の思想について（島津） 第 4 回 歴史（3）：鹿児島の土風文化について（島津義弘の生き様など）（島津） 第 5 回 歴史（4）：鹿児島の土風文化について（薩摩琵琶・天吹について）（島津） 第 6 回 文学（1）：霧島～霧島神宮・古事記「女と刀」 与謝野晶寛・晶子「霧島の歌」～（三嶽） 第 7 回 文学（2）：奄美群島の文学～加計呂麻島・島尾敏雄 硫黄島「俊寛」（三嶽） 第 8 回 文学（3）：桜島～文学碑巡り 梅崎春生「桜島」 新田次郎「桜島」（三嶽） 第 9 回 文学（4）：梨木香歩「海うそ」の世界 廃仏毀釈について（三嶽） 第 10 回 鹿児島の自然環境 第 11 回 まちづくり（1）：都市 第 12 回 まちづくり（2）：農山村① 第 13 回 まちづくり（3）：農山村② 第 14 回 まちづくり（4）：観光 第 15 回 まちづくり（5）：離島		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	担当者で分担して評価をする（島津 30 点、三嶽 30 点、前田 40 点）		
実務経験について	島津義秀（精矛神社の宮司、加治木島津家の第 13 代当主）、三嶽公子（月の舟自由大学の学長、きりしま月の舟主宰）、前田千春(なし)		

授業科目	社会活動	担当者	担当教員
	[履修年次] 指定なし [学期] 通年 [単位] 2～4 単 位	授業外対応 [必修/選択]	選択(注) [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(101%)		
実務経験について	(注) 商経学科を除く		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員
	[履修年次] 1年 [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択]	授業外対応 [必修/選択]	選択(注) [授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (事前指導のなかで指示する)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		
実務経験について	(注) 商経学科を除く		